

## [ライブラリー]

**偏見と尊厳**  
**地域に根ざしたリハビリテーション入門**  
 (An Introduction to Community-Based rehabilitation)

E. ヘランダー：著 佐藤秀雄：監修 中野善達：編訳  
 田研出版 1996年

本書の原本は Einar Helander 著 “Prejudice and dignity—An Introduction to community-based rehabilitation” であり、1993年に国連開発計画の障害者のための地域間計画の一部として出版されたものである。

本書は、各章・節からなる第1部～3部で構成されており、邦訳でB5版、270ページに及んでいる。

「はじめに」では、問題の所在として、開発途上国の障害者に対する従来型のサービス・システムは、概念的に問題があり、医療モデルを基本とした「施設中心型」であり、そのサービスを受けられる人を少数に限定し、かつ彼らを社会から隔離してきたこと、さらに、そこで展開されてきたリハビリテーションは、不適切で、効果的ではなく、高価であり、改革の必要性があることが指摘されている。

「第1部 背景」は、定義と基本概念の頻度・出生率・その原因、障害者のニーズ、従来型の制度、歴史的な展望、偏見の6章に別れている。

まず、障害および障害者の定義が、文化や社会・経済的發展とどれほど深く結びついているかを示し、リハビリテーションという用語の発展のレビューおよび地域社会という概念を記述している。ここでは、リハビリテーションの操作的定義を、障害者に向けられた行動だけではなく、環境や社会の一般的な制度などを、障害者のニーズに合致するよう変えようとする行動も含めたもの、とかなり広げることが示されている。

次に、開発途上国と先進国における障害者がおかれている状況が統計的なデータに基づいて分析されている。それによると「中度、重度の障害者数は、1993年現在、先進工業国で約9,500万人(人口比7.7%)、開発途上国で2億人(人口比4.5%)であり、世界全体で3億人近い人数がいること、この数は今後毎年850万人ずつ増加することを明らかにしている。

「第2部 従来とは別の解決法」は、問題解決、地域

に根ざしたリハビリテーションに関連する原理・目的・総合的なアプローチ、リハビリテーションの技術、リハビリテーションサービス供給システム、リハビリテーションの管理・運営、各国政府と地域社会に根ざしたリハビリテーション、障害者と障害者組織の役割、リハビリテーション評価および実践、協力と国際調整の9章からなる。ここでは、地域社会に根ざしたリハビリテーションという、これまでとは異なる方略の提唱と、それに関連するこれまでの経験を示している。すなわち、開発途上国の障害者が遭遇する問題を4つの側面(機能面、組織面、環境、政治的な問題)にまとめ、平等、社会連帯ならびに統合という基本原則に立脚したリハビリテーション計画理念を明らかにしている。リハビリテーションの目的は「究極的に、すべての障害者が、尊厳をもって人生を送ることを可能にする開発を促進することである」としている。さらに、新たなリハビリテーション技術は、医学モデル中心の欧米の技術を移転させるものではなく、既存の経験を生かした直接問題解決型・人間中心型のアプローチが必要であると述べている。

「第3部 将来への挑戦」は、配慮が十分な社会の必要性、将来に向けての行動計画の2章で構成されており、将来への挑戦を扱っている。ここでは、リハビリテーションに対するニーズとは別に、障害者とりわけ高齢者に満たされないケア・ニーズがあることが指摘され、問題の程度・範囲を明らかにするために先進工業国におけるいくつかの統計が示されている。いかなる国もこれらのニーズを税収で解決することを期待することができず、別の解決策が必要となっている。それは、人々自体によって再び見出された連帯の精神で必要なサービスを提供できる「配慮が十分な社会」をつくりあげることである。その上で、今後10年間のリハビリテーションのための優先事項に関連する一連の提案が記述されている。

以上で明らかなように、本書には、地域社会に根ざしたリハビリテーションに関して、包括的で具体的な提唱がなされており、その背景、理念、方法、今後の展望が叙述されている。国際的な視野に立ち、開発途上国の問題が論じられているが、その内容は先進工業国のリハビリテーションの問題性を余すところなく指摘した上で、新たな地域リハビリテーションのあり方を言及したものである。したがって、わが国に当てはまることや今後の課題とすべきことが多々含まれてい

る。加えて、具体的でかつ膨大なデータに基づいた分析は、リハビリテーション学を研究する上での貴重な参考書となるであろう。

最後に、本書は国連における障害及び障害者問題への重要な取り組みとそれらへの日本政府の対応の問題性に鑑み、重要な情報の入手と可能な限り早く広くそれを伝播しようとする中野善達先生の熱意なくしては邦訳されなかったことを付記しておきたい。

(静岡県立大学短期大学部 岡田節子)